



IT HOLDINGS

Go Beyond

ITホールディングス株式会社

## Business Report

第6期営業のご報告

平成25年4月1日～平成26年3月31日

# Message

株主のみなさまへ



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第6期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)営業の概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、政府の積極的な財政・金融政策等を背景として、個人消費、鉱工業生産等が牽引し、緩やかな景気回復の動きが強まりを見せました。また、情報サービス産業においても、上期には金融機関をはじめとする一部顧客にとどまっていたIT投資意欲の高まりが、下期には産業分野においても感じられるようになるなど、事業環境は改善傾向にありました。

このような状況の中、当社グループの業績はITインフラストラクチャーサービス、金融ITサービスおよび産業ITサービスの主要3セグメント全てが前期比増収となるなど売上が好調に推移し、利益面では不採算案件の影響があったものの、前期比増益となりました。なお、期末配当金につきましては、前期比3円増配の1株につき17円(年間配当金では前期比4円増配の25円)とさせていただきます。

現在、当社グループは、グループが一体となって変革を成し遂げるIT企業グループを目指し、基本コンセプト「トップライン重視」、「as One Company」、「進取果敢」に基づき、第2次中期経営計画(平成25年3月期～平成27年3月期)の諸施策を推進しています。過去2年間の実績を踏まえ、最終年度におきましては、好調な市場環境下において一層利益面を重視しつつ、グループ一体経営を推進し、サービス化・グローバル化の取り組みを深化させてまいります。その一環として、平成26年6月から当社およびグループ会社全51社のコーポレートロゴマークを統一いたしました。新しい共通ブランドメッセージ「Go Beyond」のもと、今まで以上にグループとしての結束を固め、現状に満足せず、“その先に向かって”常に新たなチャレンジを続けてまいります。株主のみなさまにおかれましては、引き続き一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月

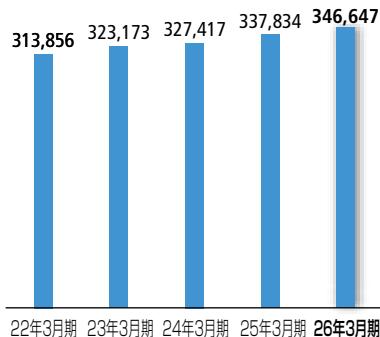
代表取締役社長

前西規夫

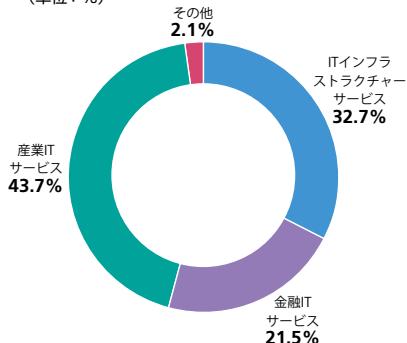
# Highlights

## 連結決算ハイライト

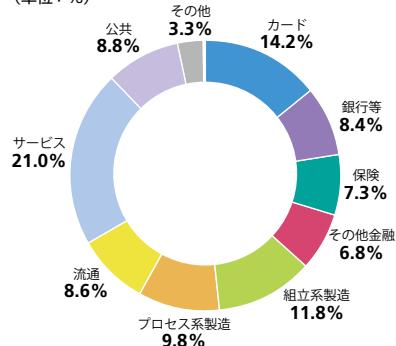
売上高  
(単位：百万円)



セグメント別売上高  
(単位：%)



業種別売上高  
(単位：%)

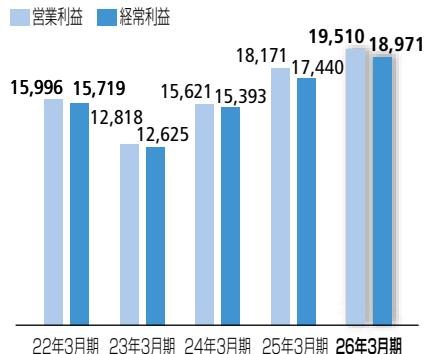


緩やかな景気回復の動きに伴い、顧客のIT投資意欲の高まりが感じられるなど、事業環境は改善傾向にあり、増収増益に。

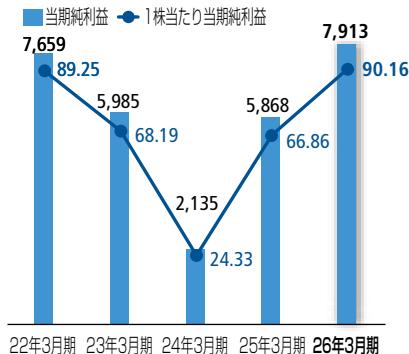
詳細は11~12頁  
連結財務諸表の  
ポイントへ。

- 売上高は、大型開発案件の反動減があった産業ITサービスでも増収を確保するなど、主要3セグメントの全てで前期比増収に。
- 営業利益は、産業ITサービスにおける不採算案件の影響と販売費の増加による減益を、ITインフラストラクチャーサービスおよび金融ITサービスがカバーし増益に。

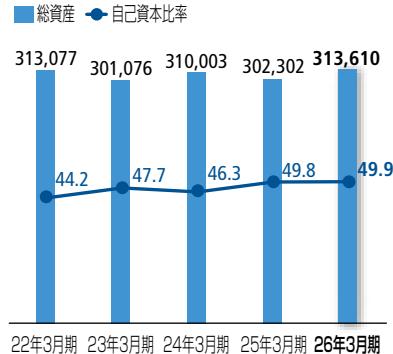
営業利益／経常利益  
(単位：百万円)



当期純利益 (単位：百万円) /  
1株当たり当期純利益 (単位：円)



総資産／自己資本比率  
(単位：百万円、%)



# Medium-term Management

## 第2次中期経営計画の進捗状況

当社グループは平成24年4月から3カ年を計画期間とした「第2次中期経営計画」を展開しています。最終年度である平成27年3月期は、これまで2年間の成果と進捗状況を勘案し、基本コンセプトである「トップライン重視」「as One Company」「進取果敢」に基づき、グループ各社が各種施策を実践いたします。

### 第2次中期経営計画 基本コンセプト

トップライン  
重視

as One  
Company

進取果敢

平成25年3月期

本格的なV字回復を果たす  
年度と位置付け、  
売上高拡大を図る

平成26年3月期までの進捗状況

グループ全体最適に向け  
一体感を醸成する

平成26年3月期までの進捗状況

事業面の変革を行うとともに、  
サービス化・グローバル化へ  
踏み出す

平成26年3月期までの進捗状況

# Plan

## グループ経営方針

平成26年3月期

業績回復を確実にすべく、  
トップラインを  
「成長軌道」に乗せる

特長ある明確な強み（成長エンジン）の構築と強みの連携やコア事業への集中は進むが、不採算案件への取り組みは大きな課題。

グループコミュニケーション基盤の  
更なる強化とオープン＆ダイナミックな  
風土を醸成する

コーポレート機能の集約や一体感醸成のための活動が進む。「グループ一体経営」の実現に向けてグループブランドの統一を決定。

サービス化・グローバル化の  
拡大を図る

サービス化・グローバル化への取り組みが進み、事業規模は拡大基調。業界のパラダイムシフトへの適切な対応のため、深化が必要。

平成27年3月期

利益額と利益率に重点を置き、  
それを確実にする  
トップラインを獲得する

- (1) 好調な市場環境の中で確実に利益に結びつける体制の確保
- (2) 不採算案件の大幅な抑制と生産性改善

「グループコミュニケーション基盤の  
強固化」をベースとした  
「グループ一体経営」に重点を置く

- (1) 「特長ある明確な強み（成長エンジン）」と「強みの連携」の推進
- (2) グループブランドの統一
- (3) コーポレート機能の集約とベスト・プラクティスの展開

サービス化・グローバル化の  
取り組みを深化させる

- (1) 市場ニーズを踏まえた「企画型サービス」の拡充
- (2) グローバル化策の多面的検討

# as One Company

「as One Company」の実現に向けて

ITホールディングスグループ全社が新ロゴで統一

当社グループは第2次中期経営計画「Brave Steps 2014」基本コンセプトの一つとして「as One Company」を掲げ、一体感と求心力のある企業集団の構築に取り組んでいます。

その一環として、平成26年6月から、当社およびグループ会社全51社のコーポレートロゴマークを一新しました。



## IT HOLDINGS GROUP

Go Beyond

当社およびグループ51社、約2万人の社員が、今まで以上に一体感をもってお客様と接していくことを明確に示すため、傘下の事業会社毎に別々であったコーポレートロゴマークを、グループ全体共通のものに変えることといたしました。



## ■ コーポレートロゴマーク

グループ各社が異なるエキスパートであり、その集合体としてのITホールディングスグループの一体感、そして未来へ向かって進み続ける躍動感を表現しています。また、新たな挑戦の場を表現するオーシャンブルーと、堅実と確かな技術の裏付けを表現するインテリジェントグレーの2色を、メインコーポレートカラーに決めました。

## ■ ブランドメッセージ「Go Beyond」

常に新たなチャレンジを求めて、「その先に向かって」歩み続ける。クライアントの課題をクリアするだけでなく、クライアントのさらにその先にあるお客様のニーズを先取りして、「一歩進んだ提案をしていく」という当社グループの強い意志を表明しました。

## ITホールディングスグループ

TIS株式会社
TISシステムサービス株式会社
TISソリューションリンク株式会社
TISトータルサービス株式会社
TIS東北株式会社
TIS西日本株式会社
TISビジネスコンサルタンツ株式会社
TISファーストマネージ株式会社
TIS北海道株式会社
TIS北京株式会社
提愛斯数碼(上海)有限公司
天津提愛斯海泰信息系統有限公司
天津提愛斯数字科技有限公司
天津提愛斯軟件有限公司
TIS R&D Center, Inc.
TISI (Singapore) Pte. Ltd.

株式会社インテック
株式会社アイ・ユー・ケイ
株式会社インテック・アイティ・キャピタル
株式会社インテック ソリューション パワー
株式会社キーポート・ソリューションズ
株式会社クラウド・スコープ・テクノロジーズ
株式会社高志インテック
株式会社スカイインテック
株式会社ネクスウェイ
北国インテックサービス株式会社
株式会社マイテック
英态希信息技術(上海)有限公司
英特克信息技術(大連)有限公司
英特克信息技術(武漢)有限公司
INTEC SYSTEMS BANGKOK CO., LTD.
QARTECH VIETNAM CO., LTD.

株式会社アグレックス
アグレックスファインテクノ株式会社
ACメディカル株式会社
登録管理ネットワーク株式会社
クオリカ株式会社
高律科(上海)信息系統有限公司
QUALICA ASIA PACIFIC PTE. LTD.
AJS株式会社
ITサービスフォース株式会社
中央システム株式会社
ネオアクシス株式会社
ソランビュア株式会社

上記ほか全51社

# Group Topics

## グループトピックス

### ■ 社会に生きるITホールディングスの技術力

TIS

便利で安心なキャッシュレス社会の実現を支援

リテール決済ソリューションブランド「PAYCIERGE」展開を開始

現金以外でのキャッシュレス決済市場は2018年には100兆円を超える市場に成長すると予想されています。こうしたなか、カード加盟店やエンドユーザーに対するより一層の利便性・安全性向上を求められているカード決済事業者向けに、総合的なソリューションを提供するのがTIS株式会社の「PAYCIERGE（ペイシエルジュ）」です。

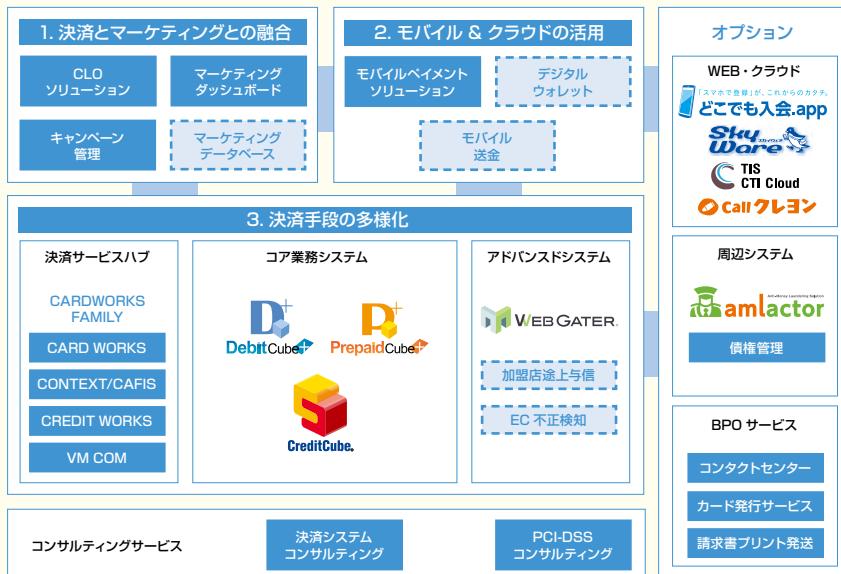
TISが最も強みとするカード決済分野のノウハウ技術を活用し

た「PAYCIERGE」では、今後ニーズが高まると思われる「決済とマーケティングとの融合」「モバイル&クラウドの活用」「決済手段の多様化」といったサービス領域に対応する各ソリューションに加えて、コンサルティングサービスからBPOサービスやクラウドサービスなど、決済に関連するあらゆる業務領域をカバーするソリューションメニューを取り揃えています。今後5年間で200億円規模の事業とすることを目指します。

PAYCIERGE

「PAYCIERGE」の  
ソリューション群

今後提供予定の  
サービス



※ PAYCIERGE（ペイシエルジュ）：「Payment（決済）」と「Concierge（コンシェルジュ・案内人）」を掛けあわせた造語で、リテール決済の分野においてTISのノウハウやソリューションを駆使し、コンシェルジュのようにお客様の課題の相談からご希望の実現まで幅広くお手伝いする「リテール決済分野の総合案内人」というTISの思いを込めています。

## インテック

### 石巻・気仙沼における「食の安全性」PRを支援

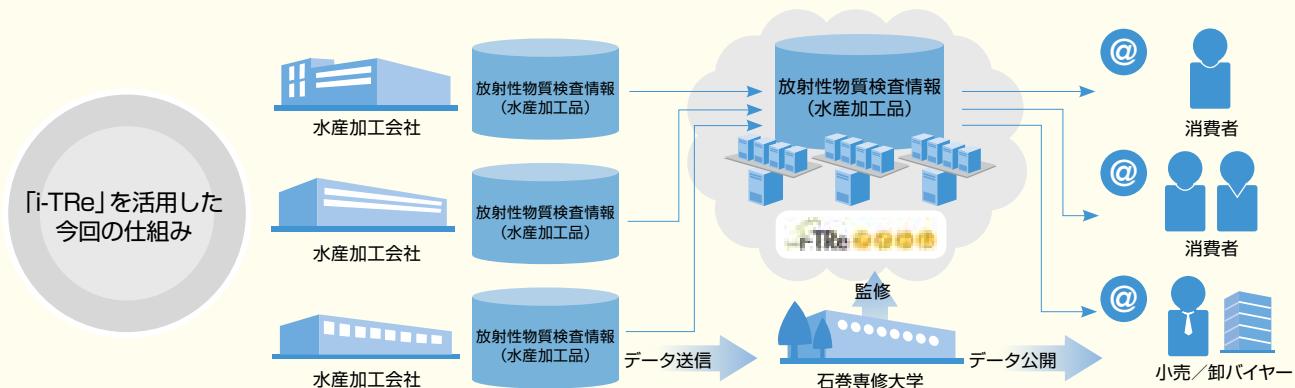
### 三陸地域の水産物情報公開事業にトレーサビリティサービス「i-TRe」を提供

株式会社インテックは石巻専修大学経営学部の復興共生プロジェクト産業ワーキンググループが、2014年3月より開始した産学連携事業「三陸地域水産物情報公開事業」に参画し、水産加工品の原材料情報や放射性物質検査情報等を登録、公開する仕組みとして、トレーサビリティクラウドサービス「i-TRe(アイトレ)」を提供しています。

同事業は、宮城県石巻市、気仙沼市における基幹産業である水産業の東日本大震災からの復興支援を目的に、三陸地域で生

産される水産加工品の安全性、商品の特長・オリジナリティ・地域性等の情報を一般消費者、小売、卸業者等向けにWebサイト上で公開します。

今回のサービスは「i-TRe」上への情報登録・閲覧など利用料金はいずれも無料で、インテックは本事業への参画により、微力ながら三陸地域の産業復興に協力させていただくとともに、今後も情報通信技術を活用した「食の安全・安心」につなげる取り組みに一層努めてまいります。



各水産加工会社が登録した水産加工品の放射性物質検査情報は、「i-TRe」上に開発したWebシステムにより、一般消費者や小売、卸のバイヤー向けにインターネット上で情報公開されます。

※ i-TRe (アイトレ) :インテックが2010年4月よりサービスを開始しているトレーサビリティシステムで、食品の提供者が、説明責任(アカウントビリティ)を果たすための当該食品に関する情報の収集・管理の仕組みをクラウド型のサービスとして提供しています。

### ■ 社会に生きるITホールディングスの技術力

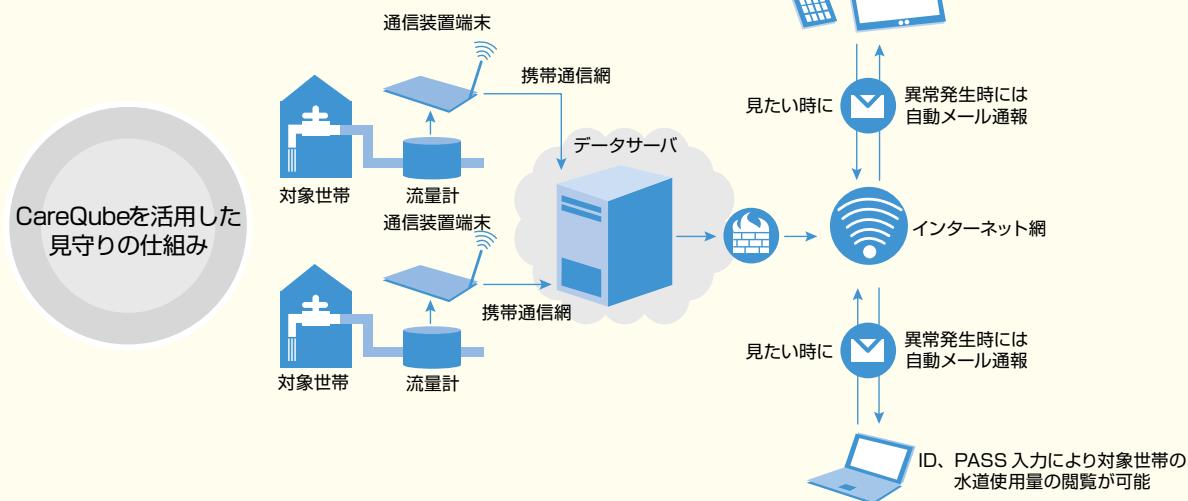
#### クオリカ

#### NPO法人との共同で、水道メーター情報を活用した高齢者見守りシステムの実証実験を開始

クオリカ株式会社は、岐阜県郡上市のNPO法人「つくしん棒」と共同でクオリカのクラウドサービス「CareQube(ケアキューブ)」を応用した高齢者見守りシステムを開発し、郡上市の高齢者世帯において実証実験を開始しています。今回、実証実験を行っている見守りの仕組みは、クオリカが主に産業機械の予防保全向けにクラウドサービスとして提供しているM2Mサービス「CareQube」を応用して、水道の利用量をモニタリングすること

で高齢者世帯の安否を含めた生活リズムを把握し、高齢者の生活支援を行うものです。2013年6月から郡上市の高齢者世帯に設置して行ってきた半年間の実証実験を踏まえ、今後は正式なサービス提供に向けて、さらに仕組みの拡充を図り、メニュー化を進めていきます。

クオリカは、今後も様々な事業を通じて社会の安全・安心に貢献してまいります。



水道の利用量のデータは3G回線を通してリアルタイムでクオリカのデータセンターに収集され、Webからいつでも確認できます。また別世帯で暮らす親族等に水道利用情報を定期的に知らせるメール配信機能等も備えています。

※M2M(Machine to Machine)：機械と機械が通信ネットワークを介してつながり、情報のやり取りをする仕組み。

## ■ 技術力への高い評価と信頼性

### 当社グループのクラウドサービスが「第7回ASP・SaaS・クラウドアワード2013」で各賞を受賞

2013年9月、特定非営利活動法人ASP・SaaS・クラウドコンソーシアムが主催する「第7回 ASP・SaaS・クラウドアワード2013」において、株式会社インテックの「インテック富山DC」および、統合認証サービス「EINS/IAM(アインズ アイイーエム)」、クオリカ株式会社のクラウド型生産管理システム「AToMsQube(アトムズキューブ)」、「Thin Office によるワークスタイル改革」がアワードを受賞しました。

「ASP・SaaS・クラウドアワード」は、クラウドサービスを社会情報基盤として確立することを目的に、国内で提供されている優秀

かつ社会に有益なASP・SaaS・クラウドサービス、PaaS/IaaS サービス、データセンターおよびそれらを利用するユーザ企業を表彰しています。

今後も、ITホールディングスグループでは、グループ各社が得意とする分野で、お客様のビジネスを支える様々なクラウドサービスを開発し、提供してまいります。



- ※ **ASP (Application Service Provider)** : ソフトウェアを、インターネットなどを通じて利用者に遠隔から利用させる事業者のこと。
- ※ **SaaS (Software as a Service)** : ソフトウェアを、通信ネットワークなどを通じて提供し、利用者が必要なものを必要なときに呼び出して使うような利用形態のこと。
- ※ **PaaS (Platform as a Service)**: アプリケーションソフトが稼働するためのハードウェアやOSなどの基盤(プラットフォーム)を、ネットワークを通じて利用できる仕組み、サービス、または事業モデル。
- ※ **IaaS (Infrastructure as a Service)**: 情報システムの稼働に必要な機材や回線などの基盤(インフラ)を、ネットワークを通じて利用できる仕組み、サービス、または事業モデル。

### AJS株式会社がパートナー企業から「プロジェクト・アワード」を受賞

AJS株式会社は、2014年3月、SAPジャパン株式会社の「SAP AWARD OF EXCELLENCE2014」にて「プロジェクト・アワード」を受賞しました。同賞はSAPジャパン株式会社がSAPビジネスへの貢献度ならびに顧客満足度において高く評価するパートナー企業を表彰するもので、今回の受賞は旭化成株式会社の「新基幹システム構築プロジェクト/NEXTプロジェクト(第一期)」の実績が評価されました。

また2014年2月には、GRANDIT株式会社がGRANDIT

事業の展開に大きく貢献したパートナー企業を表彰する「GRANDIT AWARD 2013」にてAJSが開発した人事考課支援システム「P-TH for GRANDIT」が『Solution of the Year』を受賞しました。

AJSは製造業のITシステムを得意分野としており、今後もグループ各社と連携しながら、様々なお客様にソリューションをご提供してまいります。

# Financial Data

## 連結財務諸表のポイント

### 損益計算書ハイライト

(百万円)

	前連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	当連結会計年度 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで
① 売上高	337,834	346,647
② 営業利益	18,171	19,510
経常利益	17,440	18,971
③ 当期純利益	5,868	7,913
売上高営業利益率	5.4%	5.6%
1株当たり当期純利益(円)	66.86	90.16

### 貸借対照表ハイライト

(百万円)

	前連結会計年度 平成25年3月31日現在	当連結会計年度 平成26年3月31日現在
流動資産	138,219	143,519
固定資産	164,083	170,091
流動負債・固定負債	144,143	149,107
純資産	158,159	164,502
総資産	302,302	313,610

### キャッシュ・フロー計算書ハイライト

(百万円)

	前連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	当連結会計年度 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,515	25,770
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,391	△5,334
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,883	△5,872
現金及び現金同等物の期末残高	28,433	43,142

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

① 売上高 346,647百万円 (前期比 +2.6%)

### ■ セグメント別の概要

#### ■ ITインフラストラクチャーサービス

データセンター等の大型IT設備を用いて、自社の管理のもとにコンピュータユーティリティあるいは運用サービスを提供する事業

売上高 115,360百万円 (前期比 +2.4%)  
営業利益 7,652百万円 (前期比 +7.8%)

データセンター事業における利用拡大や少額投資非課税制度(NISA) 関連の対応を含めたBPO事業が好調に推移したこと等から前期比増収増益。

#### ■ 金融ITサービス

金融業界に特化したビジネスノウハウとITをベースとして、業務のIT化およびITによる業務運営を支援する事業

売上高 75,148百万円 (前期比 +5.1%)  
営業利益 6,385百万円 (前期比 +6.0%)

クレジットカード、銀行、保険の主要顧客における緩やかなIT投資拡大の動き等により前期比増収増益。

② 営業利益 19,510百万円 (前期比 +7.4%)  
経常利益 18,971百万円 (前期比 +8.8%)

③ 当期純利益 7,913百万円 (前期比 +34.9%)

→ くわしい財務情報は、当社ホームページにて公開中です。

ITHD IR

検索

<http://www.itholdings.co.jp/investors/>

顧客のIT投資ニーズを的確に捉えた結果、主要3セグメントの全てにおいて前期比増収。

#### ■ 産業ITサービス

金融業界以外の産業分野および公共分野等のビジネスノウハウとITをベースとして、業務のIT化およびITによる業務運営を支援する事業

**売上高** 158,234百万円 (前期比 +1.6%)  
**営業利益** 4,687百万円 (前期比 △6.1%)

大型開発案件に係る反動減の影響を需要増の取込みでカバーし、前期比増収。営業体制強化に向けた販売費増加や不採算案件の影響等により前期比減益。

#### ■ その他

情報システムを提供する上での付随的な事業他

**売上高** 16,498百万円 (前期比 +1.6%)  
**営業利益** 2,152百万円 (前期比 △0.1%)

※各セグメントの売上高は、セグメント間の売上高を含んでいます。

産業ITサービスにおける販売費の増加や不採算案件の影響等はあったものの、増収効果やコスト削減等により前期比増益。

営業利益の増加に加え、特別損失が減少したことなどにより、前期比増益。

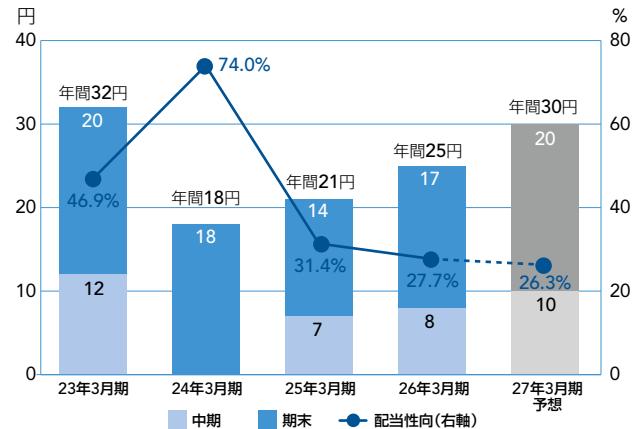
#### 平成27年3月期連結業績予想

金融ITサービスおよび産業ITサービスを中心として、顧客のIT投資ニーズへの的確な対応による事業拡大を図るとともに、不採算案件の発生防止や生産性の改善等に取り組むことにより、前期比増収増益を見込んでいます。

売上高	355,000百万円	前期比	2.4%増
営業利益	21,500百万円	前期比	10.2%増
経常利益	20,500百万円	前期比	8.1%増
当期純利益	10,000百万円	前期比	26.4%増

#### 株式配当金について

当社グループは、株主の皆様への長期的かつ総合的な利益還元を重要な経営課題と認識しており、業績動向や財務状況、事業発展に備えるための内部留保の充実を勘案し、連結配当性向30%程度を目安として、安定的に配当を継続するよう努めております。当期の期末配当については、1株につき17円（中間配当と合わせ年間配当金は1株につき25円）とさせていただきます。



# Corporate Data

## 会社概要

概要 (平成26年3月31日現在)

商号 ITホールディングス株式会社  
IT Holdings Corporation  
設立 平成20年4月1日  
事業内容 グループ会社の経営管理ならびにそれに付帯する業務  
資本金 100億円  
上場証券取引所 東京証券取引所  
市場第一部 (証券コード: 3626)  
グループ従業員数 19,081名  
(従業員数は就業人員です)

## 事業所

本社 〒160-0023  
東京都新宿区西新宿8-17-1  
住友不動産新宿グランドタワー  
TEL (03) 5338-2277 FAX (03) 5338-2266

役員 (平成26年6月25日現在)

代表取締役会長 金岡 克己  
代表取締役社長 前西 規夫  
取締役 桑野 徹 (TIS株式会社 代表取締役会長兼社長)  
取締役 盛田 繁雄 (株式会社インテック 代表取締役会長)  
取締役 滝澤 光樹 (株式会社インテック 代表取締役社長)  
取締役 河崎 一範 (AJS株式会社 代表取締役社長)  
取締役 加藤 明 (クオリカ株式会社 代表取締役社長)  
取締役 小田 晋吾  
取締役 石垣 禎信  
常勤監査役 米澤 信行  
常勤監査役 笹倉 優 (早稲田大学産業経営研究所 招聘研究員  
青山学院大学 兼任講師)  
監査役 伊藤 大義 (公認会計士 伊藤事務所 所長)  
監査役 上田 宗央 (株式会社プロフェッショナルバンク 代表取締役会長)

※1: 小田晋吾氏および石垣禎信氏は、社外取締役です。  
※2: 笹倉優氏、伊藤大義氏および上田宗央氏は、社外監査役です。

## ■ 当社IRサイトが「2013年インターネットIR・優秀賞」を受賞

大和インベスター・リレーションズ株式会社は毎年、上場企業のIRサイトを独自の基準で評価・採点し、情報開示ならびにコミュニケーション活動においてIRサイトを有効に活用している企業を表彰しており、当社のIRサイトが「2013年インターネットIR・優秀賞」に選定されました。

<http://www.itholdings.co.jp/>

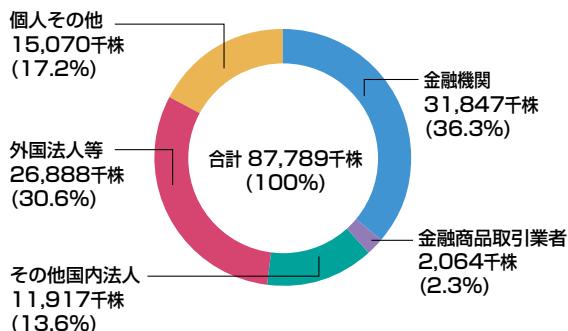
当社ホームページでは、最新の年間IRスケジュールのほか、ITホールディングスに関する最新の会社情報や財務情報等を随時公開・更新しておりますのでご覧ください。



# Stock Information

## 株式の状況 (平成26年3月31日現在)

発行可能株式総数	280,000,000株
発行済株式の総数	87,789,098株
株主数	13,743名
所有者別株式分布状況	



## 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,621	6.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,580	6.4
ITホールディングスグループ従業員持株会	2,497	2.8
日本生命保険相互会社	2,332	2.7
MSIP CLIENT SECURITIES	1,799	2.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,654	1.9
大和証券株式会社	1,602	1.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・三菱電機株式会社口)	1,598	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,402	1.6
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,360	1.6

## 株主のみなさまの声を お聞かせください

当社では、株主のみなさまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、  
アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 3626

いいかぶ 検索

空メールにより URL 自動返信 kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

# Investor Information

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月中

基準日 3月31日

(定時株主総会において議決権を行使すべき株主の確定日。その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。)

### 配当金支払株主確定日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

### 公告の方法

電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由のため電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

電子公告掲載URL <http://www.itholdings.co.jp/pn/>

単元株式数 100株

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

### 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

電話 0120-232-711 (通話料無料)

### 単元未満株式を ご所有の株主様へ

単元未満株式(1~99株)については市場で売買することができませんが、口座管理機関(証券会社等)\*を通じ、当社に対して**買取請求(売却)**または**買増請求(購入)**をすることができます。お手続きの方法等については、口座管理機関にお問い合わせください。

※特別口座に記録されている株式については、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部)までお問い合わせください。

### (例) 株主様が60株ご所有の場合

#### 【買取請求(売却)の場合】



#### 【買増請求(購入)の場合】



### 特別口座を ご利用の株主様へ

特別口座に記録されている単元株式については、特別口座のままでは売却できません。株式の売却等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設および特別口座からの振替手続きをお勧めします。なお、お手続きの方法等については、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部)までお問い合わせください。

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## ITホールディングス株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー TEL (03) 5338-2277 FAX (03) 5338-2266

<http://www.itholdings.co.jp/>